

都・建設予定地 生活記 (2)

あまり良く知られていないインドの西・グジャラート州で生活しながら、なんとかこの片田舎を都にしてみようと足掻く僕的生活記。

インドは神秘の国というが、その真髓らしいラーマヤナをちゃんと読んだことがない。知っているのはせいぜい「ダシュラタ王の息子ラーマが、森に追放されたりなんなりと苦勞を重ねながら、魔王ダシュラタを倒す」という荒すぎる筋だけだ。移動中に読もうと思いい、いつも本を忘れている……。

WELCOME TO CLEAN AND GREEN GANDHINAGAR.

空港からタクシーに乗ってガンディーナガルに入る時、こんな風に書かれた看板を頭上を通り過ぎることになる。清潔で、緑豊かなガンディーナガル。確かにガンディーナガルは清潔な感じがする。道路も整っているし、ゴミ箱の数も多い。空気も、死ぬほど汚いというわけじゃない。多分、緑が多いからだ。ガンディーナガルは緑が多いグリーンシティだ。どこを見ても緑がある気がする。街道を走っていると街路樹の多さに気づくだろうし、僕の住む大学も整った芝生が広がっていて、花壇もよく整えられている。緑には事欠かない。それにほら、レストランのベジマークだって、緑一色だ。

グジャラートに住む上でベジタリアン問題はどうしたってついてくる。しかも僕の部屋にはキッチンがない。そうすると、どうしたって外で食べることになる。外で食べるとなると、それはイコール、ベジ料理だ。インド料理は好きだから、それはいい。それに僕の舌は「普通・美味しい・とても美味しい」の三段階しか感知しないから、どんな料理だろうとお腹に溜まればそれで文句はない。そうやってベジ料理を食べ続けて長い時間が経った今、だんだんと僕の舌も変わってきた。つまり、「普通・美味しい・とても美味しい・なんでもいいけど飽きた・ノンベジの味がする」の五段階だ。今や食べる前から味が分かってお腹いっぱいになり、日本のチョコレート菓子を食べながら「なんか卵の味がする……」と思うようになった。これを成長と捉えていいものかどうか、ちょっと微妙なところだ。

こんな緑に囲まれた生活をインド人運転手に訴えると、彼はすごく心に響くことを口にした。

「まあ、ラーマ神も一時は森に住んでいたからな。お前にとっての森だな」

森か。とても粋な表現で、色んな意味で緑豊かなガンディーナガルらしい表現だ、と僕は思った。こう聞くと、あの神話もちゃんと読もうと思うから不思議なものだ。よし、次

からはインド人に聞かれたらこう返してやろう。そんなことを思っていると、僕の浅すぎる知識でも気づいたことがある。

そういえばラーマが森に住んでいたのは追放されたからでは……。

追放されたわけじゃないのだが、森の生活は今日もやっぱり緑に満ちている。

プロフィール：滝口浩平

2010年から約1年間のデリー留学を経て、東京外大ヒンディー語専攻卒業。色々あって塾・予備校の市進に雇われ、また色々あってインド現地法人 Ichishin India Consultant.Pvt.Ltd 社員となる。更に色々あって日本語教師として Pandit Denndayal Petroleum University (PDPU) で教鞭をとる。第29回織田作之助青春賞受賞。